

洪水等に関する防災用語改善検討会 6月1日マスメディア意見交換会

【出席者】

有馬 正敏	MBC南日本放送 報道部記者
武居 信介	中京テレビ 報道部参事
田中 淳	東洋大学社会学部教授
中川 和之	時事通信社 WEB 編集部
沼田 博光	北海道テレビ 報道部デスク
福島 隆史	TBS 報道局編集部兼解説・専門記者室

※五十音順、敬称略

■水位レベルの基準化について

- ・ いかにも簡単でわかりやすく住民に情報を伝えるかが重要である。警報に付随する $\alpha$ をどう使えるかを考える必要がある。
- ・ 頻度の少ない災害に対して住民がどう反応するか、情報のメリハリが重要である。一つの災害で水防警報が数十回、洪水警報も同等に出される中で、危険情報を見出す必要がある。
- ・ 水位レベルの基準図に要援護者の取るべき行動を記載すべきである。
- ・ 避難頻度の観点からも（ランクわけ）検討すべきである。
- ・ 河川の水位から語るのは難しい。水位ではなく雨が降り続くという気象のトリガーで動かないと間に合わない。
- ・ 少なくとも中小河川は最低 2 時間のリードタイムが必要。避難を決めるまで、避難を決めてから実行に移すまでで2時間必要。避難という行動自体も考えなければならない。要援護者は家の中ではなく、外で被害にあっている。
- ・ 一義的に発信する情報は、その種類が少なければ少ないほどよい。
  - Ex) 火山：火山観測情報→臨時火山情報→緊急火山情報
  - 津波：津波注意報→津波警報→大津波警報
  - 東海地震：観測情報、注意情報、予知情報
- ・ 通常の状態、注意を要する状態を区分けしておいて、今どういう状態なのかを情報を受け取る側がイメージした段階で、次に具体的に「避難が必要だ」という情報の出し方がもっとも効果的ではないか。
- ・ 用語の改善等には浸透に時間がかかることを考えるともっと単純化した、注意報、警報などに即した3つくらいに絞った情報発信が有効ではないか。地

震の震度のようなレベルはだいたい浸透している。

- ・ 火山活動のは全くイメージがわからない。普段接しているものかどうかで、情報が伝わるかどうかが決まる。そうそう頻繁に起こらない現象は、浸透しない可能性が高い。
- ・ 実際に運用する場合としては3段階程度が適切ではないか。(注意～危険)
- ・ 避難判断水位が、はん濫注意水位とはん濫危険水位の間に位置するのはなじまない。避難判断は警報より上の方がわかりやすい。初見でもわかるようなネーミングとかが必要ではないか。
- ・ 危険レベルを表す言葉として、注意報、警報、危険という順のイメージがある。この水位名称(はん濫注意水位、避難判断水位、はん濫危険水位)だと、1、2、C、4と読んでいる様な印象がある。
- ・ 火山だと火山観測情報→臨時火山情報→緊急火山情報など緊迫感が高まるということがわかる。

#### ■予警報文について

- ・ 難しいのは、津波注意報 50cm 以上の津波で出すが、50cm の津波がくると言うのと、受け取る側はその程度かと思う人がいる。そのあたりのフォローをしなければならない。補足がついたがために本来言いたいことが薄れてしまうこともあるので注意を要する。
- ・ 主文の中に“水位”という用語は必要ない。たとえば、「〇〇川が増水しています。まもなく避難勧告が出される可能性があります。注意して下さい。」  
「避難の準備をしてください、避難して下さい」が伝わればよい。
- ・ 主語は住民にすべきである。〇〇水位を突破しましたといっても住民にとっては一生に一度あるかどうかの情報であり伝える意味がない。
- ・ 気象庁と河川管理者が協同して水位と降雨のベクトルを示すべきである。
- ・ 大雨洪水警報、重要変更は伝えにくい。同じ「〇〇川はん濫警報」を何度も出すのはわかりにくい。また同じだと思ってしまう。
- ・ 予警報文で同じ「〇〇川はん濫警報」であれば冠としては使わない。
- ・ 首長が発令内容を考えるための参考となるような情報を伝える必要がある。河川管理者は住民に対して指示はできない。首長に対してのアドバイスである。市町村に対して、「行動しないと大変なことになるぞ」ということを伝えてやらないといけない。

- レベルの説明は予警報文に毎回脚注に書く。
- 連続して発令される警報文は変化したところだけでも強調できないか。予報文はタイトルを目立たせる。
- 字幕スーパーは、タイトル、文章、地名を入れて 20～23 字×2 行で表現する。
- 予報文、警報文は住民に近いマスコミや自治体職員が見ていると考える方がよい。用語集をみなくてもわかるものにするべきである。

### ■用語改善案について

- ペーパー系メディアは、「はんらん」は漢字で書けない。なんとか情報だけ「氾濫」を漢字で書かれると違うイメージを持ってしまう。ひらがなに出来るならして欲しい。メディアは混じり書きはあまりしない。
- 「ただし書き操作」は、「緊急放流」がよい。それまでと違うことをするから「ダムはもう耐えられません。あきらめます」が伝わる方がよい。
- はん濫危険水位は避難完了水位（外にいては危険）の方が良いのではないか。
- 「ただし書き」は、「貯水限界放流」、「緊急放流」がよい。
- 「ただし書き」は、“〇割カット”がよい。
- 「内水」は緊急時に使用しない。「内水発生（排水能力を超えた浸水発生）」「冠水」などでも意味は通じる。
- 「洪水情報」は「はん濫に関する情報」、「緊急」は最高ランクに使う文言であるためやすやすと使わないでほしい。
- 天端は、堤防上端より堤防上面がよい。
- 増水と出水だと増水の方がわかりやすい。

以上